

自由学園初等部 2年 学びの発表会「自由学園初等部ってなに？」

水村 賢太

子供たち一人一人が「自由学園初等部とは？」という問いに向き合い、自分にとって初等部とはどのような存在なのかを考えた。様々な方法での表現活動を通して、初等部2年生時点での自分にとっての「自由学園初等部」を見つめ直した。そして、その思いと学びを今後の初等部での生活に生かしていく。

I. はじめに

毎日、当たり前のように通っている初等部（学校）。そこでは、友達がいち、勉強をして、休み時間には思い切り遊ぶ。初等部2年生の自分にとってどのような場所なのか、どんな存在なのかを改めて考えるきっかけにしたいと考えた。

表現する際には、特別なことを学ぶのではなく、日々の教科学習の中で学ぶ表現方法を使い、子供たち一人一人が思い思いの初等部を表現した。

II. 実践の概要

1. 子供たちの様子

学習に対して、意欲的に取り組む児童が多い。友達の発言を聞いたり、教師が良い取り組みを紹介したりすると、良いと感じたものを自身の学習や生活に取り入れることができる。自分の考えや思いを文字や言葉（発言）で上手に表現することができるようになるため、日々の日記活動や授業内での発言機会、ペア学習などを多く取り入れている。

2. 学習について

表現方法として、自分だけのお気に入りの場所や発見したこと（もの）、不思議に思うことを、様々な表現方法を使って紹介する。例えば「初等部の中で好きな場所はどこか。」と尋ねると答えは、一人一人異なる。また、同じ場所であってもその理由は様々である。しかし、日々の生活の中でその理由を考えたり、言葉で表現したりする機会は少ない。そこで、子供たち一人一人の中にある自分だけのものを見つめ直し、表現活動を通して紹介する。

○学習の流れ

①「自由学園初等部ってなに？」という問いを

考える。

(1)「初等部」をテーマにイメージマップを書く。
(自分自身の初等部に対するイメージを広げる)

※イメージマップを書く活動は学習を通して行い、自身の初等部に対するイメージの変化も見られるようにした。(個人だけではなくグループでも行った。)

(2)初等部全体をイメージして絵に描く。(位置関係や大きさなどを自分で想像して描く。)

②自分にとっての初等部を考え、表現方法を学ぶ。

(1)自分だけの〇〇を見つける。

好きなこと(もの)、お気に入りの場所(もの)、生活の中で発見したこと(もの)、不思議に思うこと(もの)、知りたいこと(「?」から「!」へ)を考える。

(2)初等部を高所から見下ろし、全体を視覚的に捉える。

副学園長の成田先生にご協力いただき、学部棟4階副学園長室の窓から初等部全体を見る。(見た後、すぐに大きな紙に初等部全体の絵を描く活動を行った。)

(3)表現方法を学ぶ。

・文章の書き方(主語、述語・5W1Hなど)
新聞記事を読み、内容を読み取る。情報を上手に伝える方法を学ぶ。

・詩の書き方
オノマトペ、比喩表現、リフレイン(繰り返し)、なりきり、擬人化など、様々な表現方法を物語や詩・日記などから学ぶ。

・インタビュー(話す・聞く)の仕方を学ぶ。

・美術で絵や立体物を制作する。

③発表会に向けて、表現活動をする。

「調べる」、「考える」活動から「表現活動へ

(1)絵を描く。

初等部で自分の好きな場所を描きその理由を考
える。

(2) 詩を書く。

テーマ「初等部」

生活の中の出来事や自分の考えていることなど
を短い言葉で気持ちや行動、様子を表す。表現の
工夫を使う。

(3) ニュース(新聞づくり)

生活の中で発見したことをニュースにまとめる。
5W1Hを意識する。(例)「バッタが大量発生!」
「初等部にうさぎが来た!」「鉄棒で新しい技がで
きた!」など

(4) インタビューをする。(話す・聞く)

初等部での生活の中で不思議に思うことや知り
たいこと、また、誰に聞いたら良いかも考え、先
生や食料部の方、食事作りの保護者の方などに質
問をしに行く。

(5) グループでのイメージマップに取り組む。

「初等部」のイメージを友達と共有し、さらに広
げる。

④「学びの発表会」で発表する。

(1) 本番に向け、練習をする。

4~5人の発表グループを作り、お互いの発表
を聞き合い、さらに上手に発表するためにアドバ
イスをし合う。また、友達の考え方や発表の良い
所を見つけ、自身の考え方や表現、発表に生かす。

(2) 「学びの発表会」本番で発表をする。

グループごとに場所を決め、お客さんに対し発
表を行う。

(3) 「初等部」をテーマにもう一度イメージマッ
プを書く。

(4) 「自由学園初等部ってなに?」という問いを
考える。

表現活動から発表までの学びを通して改めて
「自由学園初等部ってなに?」という問いを考
える。

○発表の形式

・紙芝居形式

一人ずつ絵や詩がかかれたパネルを持ち、自分
でめくりながら発表する。

・4~5人のグループを作り、順番に発表していく。

・全員の発表が終わったところで、質疑応答の時
間をもつ。

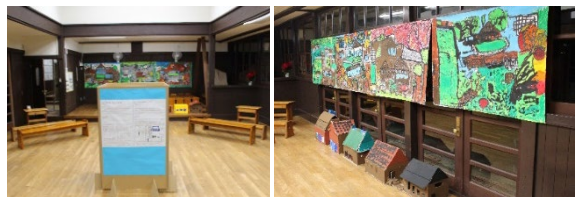


○発表内容

- ・絵:「初等部の中で好きな場所」
- ・詩:「初等部(好きなこと、物、場所、初等部に
ある物)」
- ・初等部ニュース:「発見したこと、知らせたい
こと」

○展示発表

- ・絵:鳥になって見よう「初等部」
- ・立体作品:好きな初等部の建物



III. 結果

○「学びの発表会」当日の様子

たくさんのお客さんを前に緊張した様子も見
られたが、発表を重ねるごとに子供たちの緊張
がほぐれていくのが分かった。声も大きくなり、
お客さんからの質問に自分の言葉で一生懸命答
える姿も見られ、発表する中でも成長を感じる
ことができた。

○学びを通して

発表会後のリフレクションでは、他学年の発表
を聞き、感じたことや疑問に思ったこと、発表の
様子などを出し合った。また、発表会に向け学習
してきたことや発表を振り返り、自分自身の変化・
成長を感じる事ができた。

また、学習前、学習後に行ったイメージマップ

を比較することを行った。ほぼ全員がイメージする言葉が増えた。その内容にも学習を通して考えたことや新たに得た知識や経験が多く見られた。

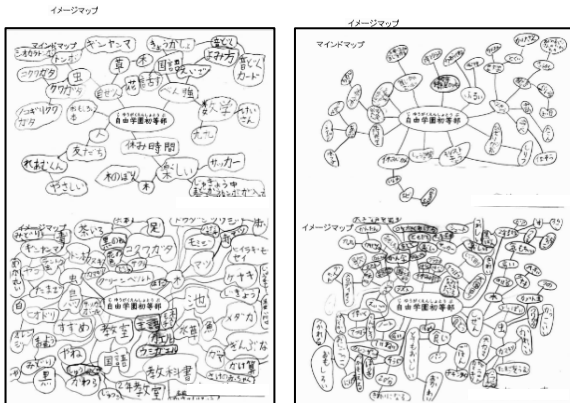
最後に「(自分にとって)自由学園初等部ってなに？」という問いを考えた。

【子供たちの答え】

「友だちが来る楽しい学校」「いっぱい学べる場しょ」「楽しくて、たくさんべん強できて、自ぜんが多くて、友だちがたくさんいる小学校」「ゆめの場しょ」「私のとって大すきな場しょ」など

〈イメージマップ〉学習前後の比較

学習前 (上段) 学習後 (下段)



対して、自分なりの答えにたどり着くことができた。

また、まとめ方、そして見せる技術(レイアウトなど)を学習するところまでは、2年生の段階では、学習することはしなかったが、学びの発表会当日の他学年の発表を見聞きしたことで、「パソコンを使って、発表してみたい。」「ポスターを作って発表していた。」「大きく書いたり、色をつけたりすると見やすい。」など、様々な表現方法に触れたことで、子供たちの意欲につながった。

今回の学びが子供たちのこれからの生活につながり、一つ一つの活動から経験したことを生かして生活していった欲しい。



IV. 考察

学びを通して「自由学園初等部ってなに？」という問いを考えてきた。子供たちは、1年生から約2年間生活してきた初等部の中で、今まで当たり前のようになっていたことを一つ一つ見つけ、考え、それらを言葉や絵で表現することで、子供たち一人一人が、自分にとっての「初等部」の存在を捉え直すことができた。

V. 今後の学び・生活に向けて

今回の学習で、子供たちが不思議に思うことや知りたいことについて、自分で調べる活動を行った。子供たちの問いは、さまざまな分野、領域にわたり、インタビューをしてもはっきりとした答えが分からないこともあった。しかし、「聞いてみたが分からない」という結果であっても、そこからさらに考え、活動を発展させていった。

例えば、「初等部にいる虫の数は？」という問いの答えが見つからなかったが、自分が今までに見つけた虫の種類を書き出し始めた。そして問いに

VI. 参考文献

・国語教科書「ひろがる言葉 小学国語二」教育出版